

平成 28 年度 第 1 回

アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会 会議録

- 日 時：平成 29 年 1 月 31 日（火）10 時 00 分 ～ 11 時 30 分
- 場 所：市民交流プラザ 5F 小会議室 3（A+B）
- 出席委員：松原委員、善利委員、及川委員、肥塚委員、岡本委員、堀江委員、
廣畑委員、星野委員、加藤委員、秦委員、遠藤委員、青木委員
- 欠席委員：福井委員、神部委員
- 事務局：山本理事（副所長）、相井参事（主任研究員）、溝内参事、澤田参与
- 傍聴者：2 名

1 開会

【事務局】

第 1 回アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会を開催させていただきます。座長が少し遅れられますので、開会にあたりまして今回は副座長からご挨拶いただきます。

【副座長】

お忙しい中ご出席いただきお礼申し上げますとともに、UDCBK 設立にあたりご尽力いただいたことに厚くお礼申し上げます。

このUDCBKは他にみられない非常に貴重な存在です。そうした中で今後どう発展させていくか皆様のご協力ご支援が必要です。草津市の未来のためにお力添えを賜りますようお願いをさせていただき、挨拶とかえさせていただきます。

2 懇話会委員 自己紹介

3 アーバンデザインセンターびわこ・くさつ事業運営懇話会について

【事務局】

<資料 2 UDCBK 事業運営懇話会開催要綱を中心に説明>

【A 委員】

- ・運営懇話会を年に何回予定しているか？

【事務局】

- ・年に3回から4回程度を予定しています。

4 UDCBKの概要及び実績報告

【事務局】

＜資料3に基づき説明＞

【B委員】

- ・UDCの役割として問題を分析して課題に取り組むという目的がある。
- ・個別事業実施後の報告がないため、実施が手段でなく目的化し、市民にイベント実施が目的のように錯覚を与えることを懸念する。

【座長】

- ・UDCBKの行ってきた手段としての取組み自体が目的になると懸念されるので、次に何を指すのかを明確にしていきたいというご意見でした。

【A委員】

- ・UDCBKは開設したばかりのため、まずは市民への周知、交流が最初の目的となっていることは致し方ないが、来年度には総括して、交流する目的を明確にして、目標に繋げるよう心がけたい。

【C委員】

- ・個別事業に参加し学んだ市民がコミュニティ事業団の助成金を獲得するまでに成長した事例もある。UDCBKの事業が市民の背中を押しているという事実も申し上げたい。

【座長】

- ・事務局の方からも具体的な成果を交え事業概要の報告を肉付けして下さい。

【事務局】

- ・未来創造セミナーなど個別事業では参加者のアイデアに対して社会実験を実施していくことなどを目指している。来年度は市民の意見を反映しながらテーマを設定して取り組んでいきます。

【D委員】

- ・A委員より役割の明確化のお話があったように、町内会、学生の役割の重複を避け、各団体のやるべきことを絞り込むためにもUDCBK独自の事業内容や役割

を提示する交通整理をしていただきたい。

【座長】

- ・この件に関しまして、事務局の方でも更に検討していただきたい。

事務局側より、公民学連携の中でそれぞれが課題を持ち帰り、それぞれの立場で何が出来るか、そして必要に応じて連携していくというUDCBKのプラットフォームとしての役割の説明等があり、次回詳細資料を準備するとのことでした。

5 UDCBKの移転計画について

【事務局】

<資料4に基づき説明>

【E 委員】

- ・図面ではオフィスがふたつあるようだが？

【事務局】

- ・現段階での仮の図面であるが、オフィスは一番奥に(1箇所)配置されています。

【座長】

- ・今後、ワークショップなどで市民の意見を取り入れながら決めていく。

【B 委員】

- ・ワークショップのテーマについて、新拠点で何をしたいか、何が出来るか、どちらの視点で行われるのか？

【事務局】

- ・両意見をとりいれたいと考えています。

【B 委員】

- ・「UDCとしては何を実現していくのか」なので、市民聴取としては「何が出来る」なのではないかと思い、伺った次第です。

【C 委員】

- ・新拠点に市民の意見を取り入れてもらえるかの質問に対し、すぐにワークショップを計画いただいて感謝している。

【座長】

- ・プラットフォームとしての場になりますので、利用する市民の立場で新拠点を話しあうのも重要です。

【事務局】

- ・ワークショップでは既存のUDCの写真や別の施設の事例を示しながら市民から意見を聴取していきます。

【座長】

- ・予定地が駅前の路面という好条件のロケーションを活かして、歩道を歩く人の興味をひくような設計ができればいい。
- ・2月に2回開催されるワークショップでの意見については持ち回りで懇話会の皆さんにお知らせします。

6 平成29年度のUDCBKプログラムについて

【事務局】

<資料3に基づき説明>

【F委員】

- ・UDCBKの事業の成果をアウトプットとして定期的に発信してほしい。

【座長】

- ・節目節目でまとめてつなげていくサイクルを作るのは大切です。

【座長】

- ・来年度事業のテーマ「交通」「文化」についてはUDCBKで取り上げるのはわかるが、「琵琶湖」についてUDCBKでは具其他的にどういったことをするのか？

【事務局】

- ・外部から来られる方で、市民から琵琶湖というキーワードが出てこないとの意見があります。
- ・琵琶湖は市民にとって福祉・防災・環境の関心領域としての基調があり、企業の社会貢献の観点からも地域環境への取組みが注目されている。現時点では具体案はないが琵琶湖というツールを新たなまちづくりのヒントにしたいと思います。

【F 委員】

- ・琵琶湖に関わりのある方や、先に琵琶湖に関心を持って取り組んでいる他の自治体の事例に学ぶなどして取り組んでいてはどうか。

【座長】

- ・個人的に甲賀に行った折感じたのだが、水源の地域を通じる琵琶湖とのつながりも重要なのではないか。

【G 委員】

- ・草津という都市の移動の激しい中、定着する自然は市民のライフスタイルにとって重要な要素なのでそこに琵琶湖を関連づけてはどうか。

【H 委員】

- ・琵琶湖という切り口はかなり荒っぽいですが、滋賀県は環境に厳しく取り組んできたので永く住む人にとって琵琶湖を守る生活は当たり前のことだが転入してきた人はそういった意識が希薄で、新旧の住民間で琵琶湖の環境面でも意識格差があるなか、うまく調和する方法を考える必要はある。

【D 委員】

- ・琵琶湖という大きなテーマで語るより、交通や文化等とリンクさせて小さなことで議論した方が、UDCBKではうまく成果がでるのではないか。例えば交通とリンクして歩くまちづくりといったテーマで南草津駅から琵琶湖まで歩いたり、文化とのリンクで矢橋の万葉の詩の地を歩いて観光都市に発展させるなど。

【座長】

- ・琵琶湖を通して体感するという取組みは面白い切り口で、例えば矢橋船といった歴史ある地や街道を歩くことにより健康にもつながり、新たな発想が生まれ、議論も進むのではないかと期待する。

【H 委員】

- ・社会実験事前調査事業での懸念ですが、社会実験となりますと、調査レベルのことから始めなければならないもので、本来は市民との学習交流の中で出た疑問や課題をオープンデータの利活用とすりあわせたうえで企画するべきと思う。調査があつて分析に入り、次のステップに進み、社会実験に繋げていく必要があると感じる。

【事務局】

- ・今年度に関しては各大学から提案いただき委託しているが本来は市民の課題をとりあげて調査に入っていただくのが理想だと思います。

【H 委員】

- ・市の呼びかけで大学側から社会実験を提案するより、市民の問題提起からディスカッションを経て新しいアイデアが生まれ、相談いただければそこに見合うような社会実験に協力できるようになるかと思っています。

【事務局】

- ・例えばオープンスペースを活用して定期的な会を運営いただき、市民との対話の中から社会実験の種を見つける方法もあります。ぜひ大学の方からもそのような方法も検討いただき、ご提案をお願いします。

【座長】

- ・公募するとどうしても大学からの提案に偏るのですが、大学が何をテーマに調査するかを考えるためにオープンスペースを利用して市民との議論や話題のなかから見つけ出してもらうなど、調査事業だけが独立しないよう、研究室と市民との橋渡しもUDCBKの重要な役割かと思っています。

【事務局】

- ・社会実験事前調査事業は昨年度から各大学と連携を深めるため試行的に進めていたものですが、来年度からはテーマに基づき、アウトプットを意識した中で進めていきたいと考えています。

7 その他

【事務局】

<資料3 今後の予定 に基づき説明>

【座長】

- ・全体を通してご意見ありましたら発言願います。

【I 委員】

- ・法人化のスケジュールはどうなっているか。

【事務局】

- ・来年度、懇話会で議論を進めながら方向性を決めていきます。

【D 委員】

- ・公益社団、公益財団 どちらか。

【事務局】

- ・現段階では決まってない。懇話会で資料を提示しながら決めていきます。

【D 委員】

- ・各団体の分担分けも出てくると思われるが、法人に人材を出すとなれば定款など丁寧に進めていただくようお願いします。

【事務局】

- ・十分に配慮させていただきます。
- ・各団体へのご負担がどういった形で発生するかなど提示しながら議論させていただきます。

【H 委員】

- ・運営懇話会の要綱に期限の明記はないが、今後UDCBKについての議論と新しい組織をつくる話し合いが出てくるが、来年度もこういった形で行われるのか。

【事務局】

- ・原則現メンバーで継続し、人事異動があれば任期について話し合っ調整してまいります。
- ・次回懇話会は新拠点工事の関係で6月～8月頃と考えています。

【F 委員】

- ・事業計画については4月頃回覧等でお知らせいただきたい。

【事務局】

- ・承知しました。

【D 委員】

- ・ビブリオバトルは小学生の間で人気が高いので定期的に開催したり、大人版も含めて草津の目玉にするようなイベントに発展できないか検討いただきたい。

【事務局】

- ・ビブリオバトルは立命館の先生が発案されたもので、専門書を簡単に読むという趣旨から始まったもので、UDCにも合うかと思えます。

8 閉会

【座長】

- ・様々な立場の委員が懇話会で議論することで多様性の中から新しいものが生まれてくると思いますのでまちづくりにおいても活力の源となるかと思えます。今後も大いに議論し、このまちの未来へとつなげていきましょう。簡単ではございますがご挨拶にかえさせていただきます。

【事務局】

- ・それでは第1回懇話会はこれで終わります。
- ・長い間ありがとうございました。

以上。